

教 育 長 様

研究コース	グループ研究Aコース	選定番号	21
校園コード(代表者校園の市費コード)		631368	

代表者 校園名: 大阪市立香簗小学校  
校園長名: 尾崎 士郎 校印  
電話: 6474-5210 FAX: 06-6474-8318  
申請者 校園名: 大阪市立香簗小学校  
職名・名前: 教諭 丸岡 慎弥  
電話: 06-6474-5210 FAX: 06-6474-8318  
代表者校園 事務職員名: 岩崎 珠弥

## 平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究 報告書

◇ 平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究Aコース	研究年数	新規研究(1年目)
2	研究テーマ	<b>子どもの発言で深める「考え議論する道徳」を実現する授業方法の開発</b> ◆ 研究内容のキーワード: 研究の内容をキーワードで記載してください。(【例】学力向上、体力向上等) 考え議論する道徳 ファシリテート 多面的多角的 教材活用 構造的な板書			
3	研究目的	○授業研究を通し、子どもたちが多面的多角的に道徳的諸価値を深めることのできる道徳授業の構成を開発する。 ○子どもたちの多様な考えを引き出したり広げたりするための教材活用の方法を開発する。 ○子どもたちの多様な意見を適切にファシリテートするための教師の指導技術の向上を図る。			
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 8月下旬、校内教職員の道徳授業スキル向上のため、金沢工業大学教授を招聘し、授業研修会を行った。事前の研修として、本校教員が研究授業の際に扱う教材を学年や道徳部のメンバーで教材研究研修会を行った。そこでは、教材を複数の教員が実際に読み、それぞれが感じたことを交流した。そして、児童に何をつかませるのかについて話し合いを行った。また、授業検討会として、模擬授業形式で研修会を行った。実際にする研究授業を模擬授業で行うことで、より具体的に授業づくりについて学ぶことができた。研究会当日は、金沢工業大学教授にも示範授業を同教材でしていただき、道徳授業づくりについて具体的に学ぶことができた。導入では全員が参加できるように配慮すること、ねらいを明確に持つこと、構造的な板書、道徳の授業では「全員を花丸にする」という道徳授業に対する基本姿勢について学ばせていただいた。 11月下旬には、第2回の校内研究授業を行った。第2回目の研究授業でも、模擬授業形式での授業検討会を開催した。模擬授業では、よりすっきりし、子どもの思考を深める構造的な板書とは何かについて議論することができた。また、より児童に実感した学びとなるよう体験的な学習を取り入れ、実際に本授業に向けて考案した方法が効果的かどうかを検証することができた。研究授業当日は、今回も金沢工業大学教授に來校していただき、示範授業・校内研修会を実施していただいた。授業については、扱う内容項目を研究することの重要性を学ばせていただいた。当日は授業のみならず評価についても指導していただくことができた。 日常的な研修として「道徳通信」という形でまとめ、ほぼ日刊で発行した。金沢工業大学教授から指導していただいた内容を盛り込むことはもちろん、研究授業の成果と課題や、日常的な授業記録など、できるだけ広い範囲の内容を盛り込むようにした。2月22日公開研究会当日には「道徳通信」というタイトルの資料で102号分の資料を配布することができた。			

5	成果・課題	<p>申請書に記載した検証方法に基づいて取組を分析し、具体的に記載してください。</p> <p>○児童アンケートの項目「道徳の授業が楽しみだ」の肯定的割合を80%以上にする。          ○児童アンケートを実施し、学校全体で76%となり、達成することができなかった。成果として今回のがんばる先生支援授業で行った研修をもとにしながら、教職員が日々授業づくりを工夫したことがあげられる。また、当日の公開授業も含めて、4本の公開授業と3本の示範授業を行った。これらの公開授業が職員の道徳授業づくりの意欲向上につながり、児童への意欲につながったと思われる。ただ、さらに改善していく必要がある結果となった。</p> <p>○児童アンケートの項目「道徳の授業は自分の生き方を広げたり高めたりすると思う」の肯定的割合を80%以上にする。          ○児童アンケートを実施し、学校全体で84.9%となり、達成することができた。構造的な板書を用いることで、児童が思考を深めることへつなげることができた。さらに、構造的な板書を取り入れることで、登場人物の関係性や心情の変化などをより視覚的に支援することができた。これらのことが、アンケートの結果につながったのだと考える。また、中心発問の場面では、児童の意見を活用しながら中心発問へとつなぐことができた。その効果が、児童にとってより自分ごとにつながる問いへとすることができた。</p> <p>○児童アンケートの項目「道徳の授業では、お話や友だちの意見から学ぶことができた」の肯定的割合を80%以上にする。          ○児童アンケートを実施し、学校全体で91.5%となり、達成することができた。達成の要因として、授業中の対話の充実があげられる。ペアはもちろん、グループで、または一人でも多様な対話形態を取り入れた。また、対話の手順をIWBで児童に示すなど、対話がスムーズに進むような支援も行った。児童は授業中の対話にもずいぶん慣れた。道徳の学習以外の場面でも、道徳の時間で学習した対話の方法を積極的に取り入れた。児童の学習の感想の中にも「友達と意見交流することで、考えが深まりました」などの記述も見られるようになった。</p> <p>○教員アンケートの項目「道徳の授業が楽しみだ」の肯定的割合を80%以上にする。          ○教員アンケートを実施し、肯定的回答を91.6%得ることができた。先述したとおり、年間7本の公開授業（示範授業含む）と、3本の研修会で道徳の授業について見分を広げ「こんな道徳の授業がしたい」という教員の授業イメージがずいぶん膨らんだ。それにより、教員の道徳授業への意欲向上につながったのだと考える。また、研修したことをもとに日常的に授業に取り組んでいる中、職員室では、道徳授業について話題になることが少なくなかった。「今日の導入は〇〇のようにした」「中心発問では～～というような意見が出てきた」「今日の板書はこんな風になった」と交流することで、日常的に授業力向上に取り組むことができたことが、結果の要因であると考え。</p> <p>○教員アンケートの項目「道徳の授業づくりが年度初めよりも理解できた」の肯定的項目を80%以上にする。          ○本アンケート項目は、教員から100パーセントの結果を得られることができた。特に教員が研修の手ごたえを感じていたのは示範授業である。講師である白木みどり先生に示範授業をしていただいたことで、私たちの研究テーマにより具体的に迫ることができた。「どのような授業をすれば『考え議論する道徳授業となるのか』」、「それを子どもの発言で深めるにはどのようにすればいいのか」を具体的にイメージできた。本項目の結果からも、示範授業を3度実施していただいた効果は大きかったと感じている。</p> <p>○教員アンケートの項目「児童の多面的多角的な意見を引き出し、考え議論する道徳授業が達成できた」の肯定的項目を80%以上にする。          ○こちらの項目も83.3%と、目標値を達成することができた。日々の授業の中でそれぞれが「考え議論する道徳」となるよう迫った授業を実施した成果であると考え。また、子どもたちの意見を生かすことに教員が手ごたえを得ることができたからこそ、こうした結果となった。これから、今回の研究テーマ「子どもの発言で深める考え議論する道徳授業づくりの開発」に大きく近づくことができたと考え。</p>								
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1"> <tr> <td>日 程</td> <td>平成 31 年 2 月 22 日</td> <td>参加者数</td> <td>約 30 名</td> </tr> <tr> <td>場 所</td> <td colspan="3">大阪市立香簀小学校</td> </tr> </table>	日 程	平成 31 年 2 月 22 日	参加者数	約 30 名	場 所	大阪市立香簀小学校		
日 程	平成 31 年 2 月 22 日	参加者数	約 30 名							
場 所	大阪市立香簀小学校									

※上記の内容について、原則としてフォントは10ポイント、A4判2ページ(両面印刷1枚)で作成し、平成31年2月25日(月)までに、大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。(研究資料等を添付)